

## 「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」

北海道武蔵女子短期大学教養学科は、ディプロマ・ポリシーに定める幅広い教養や専門的な知識・技術などを確実に身に付けさせるために必要な授業科目を配置し、順次性に配慮し体系的かつ効果的に編成する。その際、科目履修の順次性に基づくカリキュラムの体系的学修を可能にするために、カリキュラム・マップおよびナンバリングを用いる。その上で、教育課程編成および授業実施にあたっての教育内容、教育方法、学修成果の評価の在り方についての方針を次の通り定める。

### 1) 教育内容

北海道武蔵女子短期大学は、「教養コース」・「経営・経済コース」「グローバルコミュニケーションコース」の3コースを設置し、コース共通に学修する「共通教養科目」とコース独自の「専門教育科目」という二つの系列によってカリキュラムを編成し、両者をバランスよく配置して建学以来の教養教育を重視しつつ、現代社会で活躍するための教育を施す。

このカリキュラムにおいて、それぞれのコースが設定した力を身に付けた人材を育成する。

### CP1 共通教養科目

「共通教養科目」は本学の人間形成教育を具現するために「基礎学修系」・「基礎教養系」・「生涯教養系」の三系列で構成する。

#### CP1-1

「基礎学修系」は三つに分け、「基礎科目」では少人数制の「基礎ゼミナール」や「文章作法」・「発表法」・「情報リテラシー」を配置した。「基礎コミュニケーション科目」では言語科目を配置し、「読む・書く・話す・聞く」といったコミュニケーション能力を養成する。また、「基礎情報科目」では「基礎数学」・「コンピュータ実習」を配置し、情報社会に必要な情報処理・活用の基礎知識を修得する。

#### CP1-2

「基礎教養系」は社会や人間に対する広い視野と洞察力を養うため、人文・社会・自然科学の基礎的科目を配置し、専門教育への橋渡しをするとともに本学の教育基盤となる教養を培う。

#### CP1-3

「生涯教養系」は人間としての生き方や働き方、社会生活のマナー、ジェンダー平等、健康的な生活など、これからの生涯を通じて必要となる考え方を学ぶ。

## CP2 専門教育科目

教養学科の専門教育科目を学修するにあたって、教養コース、経営・経済コース、グローバルコミュニケーションコースの3つのコースの教育目標に沿って、体系的、順次性を踏まえて科目を配置する。「専門教育科目」は、コース共通の「共通専門科目」、各コース独自に体系化されている「コース専門科目」、「他コース開放科目」、そして「自由科目」によって編成される。

### CP2-1 共通専門科目

コース共通の科目群として、「研究」・「基本科目」・「情報系」・「北海道・地域系」という4つの科目群を配置する。

#### CP2-1-1

「研究」は、学生自身の学ぶ意欲に応えることができるよう、幅広い分野について「専門ゼミナール」を展開し、その成果を「卒業研究」としてまとめる。

#### CP2-1-2

「基本科目」は、社会を構成する一社会人として欠かすことのできない、学んでおくべき科目群で構成する。

#### CP2-1-3

「情報系」は、学修や研究を進めるうえで不可欠な情報に関する知識を修得するための科目と、ビジネスの場で必須とされるコンピュータに関する実務的能力を身に付けるための科目を配置する。

#### CP2-1-4

地域の発展を目指し、積極的に貢献する力を養うために「北海道・地域系」を置き、北海道や観光に関わる知識を身に付ける。

### CP2-2 コース専門科目

教養コースは、「人文科学系」と「社会科学系」の2系列を置き、人間が培ってきた学術文化を専門的に学ぶことを通して現代社会を生きる自己を見つめ、人間理解の基本として人文科学と社会科学に関する広範な系列科目をバランスよく学修できるよう配慮する。「人文科学系」は「歴史」・「文化」・「文学・思想」・「メディア」の4分野とし、歴史や文化を通して世界諸地域への関心を高め、文学・思想やメディアに触れるなかで人間の本質に対する理解を深めるための科目を配置する。また、「社会科学系」は「心理」・「法・政治」・「教育・

福祉」・「環境・社会」の4分野とし、人間や社会の仕組みやそれに関わる諸問題を理解し、その問題解決について考察する力を身に付けるための科目を配置する。

経営・経済コースは、ローカルとグローバル双方の視点から経営学やマーケティングおよび経済学の知識を修得し、ビジネスに関する課題を解決する力を身に付けるため「経営・経済系」の科目を配置する。

グローバルコミュニケーションコースは、英語圏の文化・教養を中心とした「英語と英語圏文化系」、実践を中心とした「グローバルコミュニケーション系」の二系列を置き、両系列をバランスよく学修できるよう配慮する。「英語と英語圏文化系」は、グローバル社会を生き抜くために必要な文化理解の促進と、異文化の人々との円滑なコミュニケーション、さらに歴史を含め言語そのものへの理解を深めることを目的とした科目群を配置する。「グローバルコミュニケーション系」は、「言語運用 A・B」と「英語資格」の二分野を置く。「言語運用」分野には、社会的に通用する英語力の向上を目指し、「聞く・話す・読む・書く」の英語の4技能それぞれについて少人数制で行う演習科目を配置する。特に、主に1年次に基本的な英語運用能力を身に付ける科目、2年次にはその力を発展させるための科目を、段階的かつ効率的に学修できるよう構成する。「英語資格」分野には、学修の動機づけを高め、社会的に通用する資格取得を支援するための科目を開設する。

### CP2-3 他コース開放科目

様々な角度から文化や人間に対する理解を深め、幅広い教養と国際的な視野を涵養するために「他コース開放科目」を設ける。

### CP2-4 自由科目

「自由科目」として、より主体的、実践的に社会と関わり、問題解決を図る力を養うために「課題解決演習」を設置する。また、国際社会に関心を持ち、英語関連資格の取得や海外での学びへの挑戦を支援するための科目として、全コースに「語学研修」を、教養コース、経営・経済コースにはグローバルコミュニケーションコース科目の「検定英語演習」・「TOEIC®演習」を自由科目として設置する。

## CP3 付設課程

専門的かつ実践的な知識や技能を身に付けることができるように、「図書館司書課程」と「ビジネス教養課程」の二つの付設課程を設置する。

## 2) 教育方法

- 教育内容の実施にあたっては、対面教育を原則とし、その内容に相応しい適切な授業形態（講義、演習、実習、実技）を用いる。また、その効果について十分に検討した

上で、必要に応じ遠隔教育を活用することとする。

- 教員と学生との人間的交流を重視し、きめ細やかな指導を可能にする少人数教育を基本とする。
- 学修の指針となるシラバスを作成し、授業計画に基づいて適切に指導を行う。
- 各授業科目において授業期間中に学生の理解度や学修到達度を把握し、確実にフィードバックする。
- 教務ガイダンスやゼミナールにおいて、学生の関心や将来の希望に合わせて履修モデルを提示し、系統的に学修できるような履修指導を行う。
- オフィスアワーを設定し、専任の授業担当教員は研究室で講義に関する質問や相談に応じ、きめ細やかな教育を行う。非常勤教員は、講義終了後に可能な限り質問に応じることとする。
- アドバイザー制を導入し、年度初めに個人面談を実施し、学生生活に必要な指導・助言を行う。

### 3) 学修成果の評価

- 各授業科目で求める到達目標を具体的に定め、その到達状況を適切に評価する。
- 各授業科目の評価方法とそれぞれの評価割合を明確に示す。
- 各授業科目においてシラバスで提示された学修到達目標に対する各学生の到達度を、学期末試験およびレポート実技等試験、学修活動の状況等により適切に評価する。
- 2年間のディプロマ・ポリシーの到達度は、卒業時調査による自己評価、「卒業研究」等の学修活動をもとにしたゼミナール教員による評価、各履修科目の単位取得状況およびGPAの数値を用いて総括的に評価する。